



衣川 重介

『たたら製鉄見学記 1』

1月号と2月号に『たたら製鉄』の記事を書きましたが、今回、機会を得てその現場を見学させて頂きました。今でも1月から2月にまたがる厳冬の期間に、昔ながらの方法で製鉄をしている日刀保たたらです。（島根県仁多郡横田町）その和鉄は全国に散らばる日本刀を制作する刀匠さん達に供給されています。

私は1月28日（金）、姫路を午前8時に出発し、途中で昼食をとり糸原記念館（仁多郡横田町）に着いたのは正午過ぎでした。広大な敷地の一部に記念館があります。たたら製鉄の再現ビデオや往時の製鉄の様子が年代を追って展示されています。何代目かの結婚式の立派な用具や衣裳、献立の立派さに驚きを感じました。大きなお屋敷が記念館の向かいにあり、現在も16代目が住んでおられます。

次に、たたらと刀剣館を見学しました。ここには実物大の地下構造が展示されていて、製鉄工程の詳細説明がなされていました。多くの資料は日刀保たたらから持ちこまれたものだそうです。

午後3時に日刀保たたらに到着。たたら製鉄は4日間を一代（ひとよ）と言いぶっ続けで作業をします、その3日目を見せていただきました。30分毎に、種スキと呼ばれる木製のスコップで砂鉄を静々と運び、炉の中へ一振り二振り、村下（むらげ）と炭坂（すみさか）のこの古式に則った動作は、神前で舞う巫女の姿とだぶって見えました。炭焼き達が、ざるの炭を炉にくべると、パチパチ、バチバチの音と共に火の粉が舞い上がります。この作業を注意深く繰り返し『けら』が誕生するのです。

日刀保たたら（にっとうほ たたら）

日本刀製作の素材となる和鋼を生産するたたら製鉄は、大正14年に終焉し、戦時中一時期復活するが、戦後は廃絶し、和鋼のストックも底払いした。そこで、(財)日本美術刀剣保存協会（略称日刀保）は刀剣類の素材である和鋼（玉鋼）の安定供給のための国庫補助事業として、島根県横田町の旧靖国たたら（やすくに）の跡地に修復を加え、付属設備を新設し、「日刀保たたら」として昭和52年に復活した。（P71）

村下（むらげ） たたら吹き製鉄の技師長を“村下”といいます。村下は、たたら吹き操業の責任者で、操業の一切を指揮します。熟練した技術と経験だけが頼りのたたら吹き製鉄は、村下の力量により操業の正否が大きく左右されます。

炭坂（すみさか） 裏村下は、副技師長にあたり、技師長である表村下とともに、たたら吹き操業を司ります。たたら炉の半分をそれぞれ表村下と裏村下が責任をもって受け持ち、連携して操業を行います。

参考資料
鉄の道を往く 鉄の道文化圏推進協議会
山陰中央新報社 2001年3月31日



砂鉄を装入する 木原村下

むらの鍛冶屋®

見学を許可頂いた日本美術刀剣保存協会の皆さん、日刀保たたらで作業を見せて頂いた方々に厚く御礼申し上げます。
写真協力 (財)日本美術刀剣保存協会

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/>
ryou@memenet.or.jp



何でもお気軽にお尋ねください！！